

## 第5回美祢市総合計画審議会 議事録

日時：令和元年10月1日（火）18：30～20：00

会場：美祢市民会館 大会議室

	委員区分	団体名	氏名	出欠
1	1号委員 (市議会議員)	美祢市議会	戎屋 昭彦	欠席
2		美祢市議会	高木 法生	欠席
3		美祢市議会	竹岡 昌治	欠席
4		美祢市議会	猶野 智和	欠席
5	2号委員 (公募委員)	公募委員	井上 敏雄	欠席
6		公募委員	植山 正雄	
7		公募委員	梶岡 秀吉	
8		公募委員	西田 早紀子	
9	3号委員 (学識経験者)	国立大学法人山口大学	田中 和広	
10		成進高等学校	野原 政典	
11		山口県立美祢青嶺高等学校	藤村 慎一郎	
12		山口県議会議員	森中 克彦	欠席
13	4号委員 (関係団体)	山口県宇部県民局	磯村 昭二	欠席
14		山口県総合企画部中山間地域づくり推進課	稲垣 嘉一	欠席
15		一般社団法人 美祢青年会議所	内海 満夫	欠席
16		美祢市内郵便局	加藤 美智子	
17		美祢市教育委員会委員	金子 明美	
18		美祢市子ども・子育て会議	倉永 健造	
19		美祢市男女共同参画審議会	小林 法子	
20		美祢郡医師会	坂井 久憲	欠席
21		山口県農業協同組合美祢統括本部	篠田 一吉	欠席
22		西京銀行	末岡 貴夫	
23		カルスト森林組合	高須 修三	
24		美祢市商工会	内藤 正太	
25		連合山口美祢地区会議	永井 政夫	欠席
26		美祢市定住促進協議会	永谷 青空	欠席
27		美祢市社会福祉協議会	羽根 一孝	
28		美祢市医師会	原田 菊夫	
29		山口銀行	稗田 裕司	欠席
30		山口新聞	平岩 和也	
31	美祢市体育協会	真瀬 邦夫	欠席	

	委員区分	団体名	氏名	出欠
32		美祢市小学校 PTA 連合会	松田 龍信	
33		美祢市地域組織活動連絡協議会	三嶋 明美	
34		一般社団法人 美祢市観光協会	水谷 雅哉	

## <会議資料>

### 次第

資料 1 第二次美祢市総合計画 基本構想（案）

資料 2 美祢市人口ビジョンの人口の将来推計

資料 2 - 1 美祢市人口ビジョンの人口の将来推計 追加資料

資料 3 第二次美祢市総合計画 基本計画（案）

資料 4 第二次美祢市総合計画 総合戦略（案）

資料 5 個性豊かな地区づくりプロジェクト<差し替え>

## <その他資料>

委員名簿、座席表

## 1 開会

～資料の確認～

## 2 会長あいさつ

～田中会長ごあいさつ～

みなさんこんばんは。議員の方はまだ議会で議論されており、ご欠席のようだが、定足数は満たしているので始めたいと思う。今回第5回目となるが、前回の審議会で総合計画の柱となるまちの将来像と基本理念について審議をいただいた。また、今日までの間、それぞれの部会において部会長のリーダーシップのもと基本計画及び総合戦略について慎重に審議いただいたところである。本日の第5回目の審議会では基本構想一部修正と基本計画及び総合戦略の最終確認が主な議題である。また、最初に示された人口目標の改定案、ワークショップの意見等の反映方法についてもご提案いただくことになっている。いずれにしても次回11月に予定している審議会が答申前の最後の審議会であり、本日の審議会がある意味ご意見をいただく最後の審議会となる。最終的な答申する案をつくることになるので、是非、忌憚のない意見をいただきたいと思う。

事務局より：定足数の報告

会長：委員のみなさまの発言にあたっては挙手をして、名前を述べてからお願いしたい。

### 3 議事

#### (1) 第二次美祢市総合計画の基本構想の一部改訂（案）について

事務局より：資料1について説明

会長：資料1について、ご意見ご質問はあるか。基本目標の2について、強みを生かした産業の振興について、強みとは具体的に何なのか。

事務局：農林水産業においては、美祢市のカルスト台地と、地域ブランドとして秋芳梨、厚保くり、美東ごぼうがあげられる。ほかにも美祢市は山口県内で唯一海に面していない。森林面積の多さから農業の振興を図ることが強みではないかと思う。商工業では六次産業として Mine Collection を行っているが、より充実を図り強化していきたい。また、秋吉台を中心とした観光のまちは美祢市の特徴であるが、観光産業の再生を図ることが強みとなる。

会長：美祢市にポテンシャルがあるのはよくわかる。それらを強みとして観光であるとか、そういうところに適合した農業であるなどが書いてあるとよい。潜在的なことなど、前提となることを書くなど。

事務局：6ページの文言のことか。

会長：美祢市の強みを整理したほうがよい。書かれていることはよいと思うが、強みをもっと強くする書き方をしたらさらによいと思う。内容に異論はない。

事務局：基本構想については10年間さわることはできないものではあるが、可能な限り文章を見直したいと思う。

会長：前振りのところを書いてほしい。美祢市のことを知っているというストーリーがあるとよい。できる範囲内でいい。

#### (2) 美祢市人口ビジョンの人口の将来展望における目標人口の修正（案）について

事務局より：資料2について説明

会長：質問をお受けしたいがありますか。

委員：社人研の準拠値と美祢市のシミュレーション結果が4つあるが、補正值として使っているのは出生率以外何か使っているのか。

事務局：資料2について複雑な計算をしているが、まずは合計特殊出生率を最下段に掲げている。これによると平成52年に2.07をめざすということである。国が示している人口を維持するために必要な出生数が2.07であるが、これを段階的に引き上げて2.07を目指すという数字である。それから、裏側に表が沢山ついているが、純移動率の男性、女性を示している。美祢市が県内の市よりいい数値はそれを採用し、それ以外については、県内の市の平均値を用いて算出している。

委員：これらの結果は、これまでの施策をされてきた結果が美祢市なり、山口県なりで出されているのか。あるいは希望的観測なのか。いいところ取りだと非常に危険な気がする。また、総合計画の施策でこのように変えていくという根拠があればと思うが、そういうものがあるか質問です。

事務局：第1次するときには、目標人口を3万人としていた。その後、後期基本計画で総合戦略を立て、人口ビジョンを立てた。総合計画の人口を3万人にしており、その数値を変えられないということ、2万5千人を目標人口としたことにより、あまりにも乖離してしまった。また、どのように3万人を維持するかということ、美祢市として来福台の分譲地を何世帯売るなどもして出していたが、実際にはうまく進まず、世帯が入らなければ、子どもも生まれないので、その結果県内でも一番低い出生率となっている。また、移動率は人口の転入・転出の移動率であり、施策展開により改善せず、この度は施策によって延ばすということを表示するのが難しいということであくまで数字で出したものを目標人口としている。

委員：元々が第一次の結果を踏まえてということで理解した。せっかく議論した構想の中にいろんなものが含まれている。何かしら未来の目標に入れられたらと思う。

会長：それぞれ施策ごとに目標がないと行きつくプロセスが見えづらい気がした。来福台の団地が何が問題で目標にいかなかったのかの反省が必要だと思う。それを踏まえた上で、今後また施策を考える必要があり、今回施策を立てられたと思うが。

事務局：第1次の反省として、以前の審議会でも第1次の総括をまとめさせていただいた。最終的にはこれまでの資料をご確認いただきたい。施策展開については、第1次の大きな反省点として、5年後に施策展開がどのように進んでいるかの検証がうまくできておらず、結果が伴わなかった。この度、審議会の任期を3年としているが、PDCAを行い、検証しながら進めていきたいと思う。今後実施計画を立てるが、今後は審議会において、毎年ごとに検証し、ご議論をいただきたいと思う。

会長：総論ではなく、各論の施策は個別に一つ一つ検証し、課題を潰していかないといけない。具体的な施策展開が今後は求められると思う。さっき言われたPDCAを行っていくというのは大事である。

委員：最初のほうに総括を行い、そのときも言ったが、できなただけでなく、詳細な反省、目標に到達しなかったのは結果であって、何故できなかったかという分析が大事だと思う。会長が先ほど質問された基本構想の部分、強みを生かしたというのを書かれたらどうかということも、前回の総括というのが深堀できていない部分があると思う。PDCAを回すといっても詳細な分析やプランがないとチェックできない。3年後、次の方もその後の方も計画を見たとき、ふわっとした計画で見ると、議論が進むような計画にする責任もあると思う。

委員：大きな都市でも人口が減っている。2万人規模でも増えていることもある。モデルのようなイメージもあると市民もわかりやすい。2万人以下のまちで大成功しているまち、100万人以上のまちで失敗している例など。また周りの市町がどういう方向でまちづくりを進めるのかを把握し、周囲の6つの市がどういう方向で進めていくかも踏まえたシミュレーションを行ってみてもよいかもしれない。

事務局：人口維持については将来像にも掲げているが、子どもの出生が100人を割り切っている実績がある。単純にこのままいくと1万人を下回る計算となる。若者が転入する自治体を、子どもを出生していただく環境を注視しながら施策展開をしていきたい。周辺は山口県央連携都市を形成している。山口県全体で山口県の知名度を上げることも大事だが、山口市、宇部市を中心に各種取組も連携しながら行っている。人口維持に向けたいい事例等は汲み取ってほしい。

会長：県央7都市でいろいろされると思うが、美祢市として我々がこれをするんだということをお願いしたい。利用されないようにしてほしい。いい事例の真似をするのではなく、参考にするのはよいと思う。他の自治体はかなり思い切ったことをしているまちもある。人口の予測について、目標人口等出ている。人口設定に見合ったまちづくりをするのか、

やはり2万人、3万人戻るようなまちづくりにするのか。少なければ少ないなりにいいことができる。少なくともいきいきしているまちもあるので、それも是非参考にしてほしい。ただ、数字がこうだからと悲観する必要はない。その人口でみんなが豊かなまちになればよいと思う。

### (3) 第二次美祢市総合計画「基本計画」(案)について

事務局より：資料3について説明

会長：質問をお受けしたいが何かありますか。基本計画案はそれぞれの部会で詳細な議論をしたものが反映されている。是非、一読いただいてご意見があれば事務局に伝えてほしい。今、特に聞いておきたいことがあればお願いします。

委員：前回の会議で市立病院と美東病院で目標指標を病床稼働率にしてほしいと言ったがそうになっていないのは残念である。安定的な運営のことを考えると、患者受入人数ではなく、病床稼働率のほうが大事である。このことは、他の病院でも言われている。累積8億の赤字で本当に運営できるのか。ほかの先生とも話したが、通常2億の赤字でも運営は厳しい中、美祢は8億となっている。勤務している医者も悪いとは思いますが、このまま10年持つのか。このままの文章でよいのかももう一度検討いただきたいと思う。

事務局：指標の件だが、担当課と協議し確認している。稼働率については、当初、目標にできないかと検討していたが、病床数が一定であれば指標として用いることができる。ただ、これから病床が減っていく中で、稼働率を設定していて、目標は達成するが経営的に厳しい状況が続くこともあり、現状の病院規模を経営するのに必要な新入院患者数を確保することが大事であり、目指すべき目標として今回の数値を用いさせてほしいとうことでそのままとしている。基本計画部会でも病院経営については多くのご意見をいただっており、地域医療構想の話抜きとして、経営状況を考えていかないといけないということもあり、2つの病院のあり方について検討していくと計画で明記している。

委員：事務局の方も考えられているとは思いますが、稼働率が重要。外来はいらぬ。ほかの病院では経営をよくするために稼働率を1%でも伸ばすような計算をしている。稼働率を上げることが病院の黒字につながる。現在の状況では、そもそもが経営の間違いだと思う。他の病院でも稼働率とっている。存続するためには稼働率を上げないといけない。病院事務局の方にしっかりお話いただけたらと思う。

事務局 再度確認させていただきます。

会長：山口大学も病院を持っているが、毎月稼働率の話をする。経営というのは非常に難しいものである。我々もずっと聞いている。そのぐらい危機感を持って報告を受けている。病院も必死である手この手でやっている。いろんなところで情報を聞いて、もう一度確認いただき、現実に即して、厳しくみられたほうがよいと思う。目標は目標で凄く大事なので現実的な目標をつくられたほうがよいと思う。

### (4) 第二次美祢市総合計画「総合戦略」(案)について

事務局より：資料4について説明

会長：総合戦略案について、それぞれの部会で議論されたものがまとめられている。これも後で見ただいて、1週間以内に事務局へ伝えてもらえたらと思う。総合戦略案についてこの場ではご承認いただいたということで進めたいと思う。

## (5) ワークショップの取りまとめの反映について

事務局より：資料5について説明

会長：ご質問・ご意見はありますか。

委員：前回休んでいたが、この資料を凄く楽しく見ていた。どの地区にどういったものの公的資産が分かるといい。駅が近いとかもあったが、魅力と宝を見て、この辺なんだなというのがこれを通じてよくわかる。

事務局：知らない人から見ると、この地区にこのようなものがあることを知ることができ、相互の市民理解が広がるということだと思うが、333名の方がワークショップに参加いただき、付箋に貼っていただいたものをそのまま掲載させていただいている。スローガンや取組の方向性、発展させる取組などについては、最終的なとりまとめはしたが、魅力と宝はほぼ付箋どおりとなっている。

委員：私もよそののだが、それぞれの地域のことが地域別に非常によくわかるものだと関心している。これをどう使うかは非常に大事。今の美祢市の観光は洞窟に集中しているが、その周りのこともこの資料だとよくわかる。総合戦略にある関係人口や移住・定住を増やすことについても、観光も関わってくると思うが、この資料をもとにそれぞれの地域をどうつなげるのかが観光においても重要であり、ここあるような資源もうまく活用していきたい。これからはインバウンド、こういう地域に入り込んでくる。今後はその方たちが移住してくることもあると思う。非常に素晴らしい資料だと思う。

会長：これを見るだけでいろんなものが見えてくる。是非、これを活用できたらと思う。転入・転出もここから来ているのかというのわかる。強みも何度も聞いているが、これだけ広い土地の中で、魅力と宝がある。それを住民の方が意識し、これを強く出そうというのが非常に大事だと思う。まとめの反映というのはどういう風に理解すればよいのか。

事務局：次第の言葉の言い表しが難しかったが、元々ワークショップをするとき、この意見はどうなるのかというのを皆さん気にされていた。この資料が参考資料となってしまうのか懸念されていることもあった。今回の資料5が参考資料となつてはワークショップの意味がない。これをベースにそれぞれの地区づくりに生かしてほしいという意見も委員からあったので、その決意も込めて、総合計画の第5章に反映している。

会長：今ここに書かれている内容で各地区に頑張ってくださいという意味でよいか。

事務局：市では赤郷地区をモデルとして動いている。市としていつまでも赤郷だけというわけにはいかないので、第2弾、第3弾として地区と話しながら、モデル地区を作っていく。その後、市長が言うように公民館単位のまちづくりを進めるように発展させていきたい。地区自らが地区づくりを考えていく。住民とともに、ワークショップを毎年行って、赤郷のような地区づくりの意識をつくっていきたい。

会長：自分たちの地区を見直し、これからを考えていく。頑張っていこうという意識をつくっていく。みんなで考えたということに意義がある。今後は権限と予算をつけてもらえたらと思う。それが市役所の仕事だと思う。一生懸命考えているので、彼らにそれなりの権限と予算を与える。それで自分たちで動いてもらうことが活性化につながると思う。

副会長：地区でのワークショップに出席したが、本当に熱気のある会であり、この地域をどういう風にしていくかを考えたいい機会だと思う。せっかく盛り上がった火を消すことなく、そのために地域にある程度権限を持っていただく。自分たちが責任を持たせるような形、これからのあり方を検討いただければそれぞれいい地域ができると思う。よろしくお願ひします。

委員：質問だが、公民館単位、地域包括ケアの基本単位は公民館単位ということで考えていいのか。医師会のほうにも上がってこないのか。決まっていれば教えてほしい。

事務局：地域包括ケアの単位については、情報を掴んでいない。現在、美祢市の総合計画を審議しているが、地域の福祉計画も同時進行で策定している。その中で明確になると思う。本日はその情報を持っていない。

会長：将来の都市構造というものがある。市役所周辺。16か所というのが公民館のことだと思う。これだけの大きなまちを動かすには組織づくりが必要。ある程度核をつくって公民館をぶらさげるのか。まち全体としての組織づくり。16か所が個別にするのか、地域拠点として3つに集約していくのか。そのあたりは一つの戦略としてもっていたほうがよい。医療も教育もそうだと思う。

事務局：土地利用構想の将来都市構造、都市拠点が市役所周辺の美祢市で秋吉と美東の支所周辺が地域拠点として、生活の利便性を高めるために集約していく。

会長：そうではなく、各公民館ごとにそれはそれでやっていただく。都市構造の中で今回実施したワークショップで出されたものがどこでどう反映されるのかがわからない。

事務局：市長からも公民館単位のまちづくりを進めることを言われている。生活の拠点は集約するが、公民館単位で住民主導で地区を作り上げていきたい。今後は公民館のあり方を住民とともに検討していくことになると思う。

委員：この資料は学校教育で大いに活用できると思う。市内の様々な地域から通学している。それぞれの中学校区でこの資料をネタにして、ワークショップの資料をもう少し、議論するなど、いろいろ活用したい。

会長：非常にユニークだと思う。あとはそれぞれの地域に権限と予算をあげて、最終的に美祢市としてどうしていくかになればよいと思う。地方創生の一つの考え方だと思う。是非、これを活用していただくように、この審議会ではお願いしたいと思う。

#### 4 その他

事務局より：審議した内容をもとに明日からパブリックコメントを実施する。次回の会議は11月11日18時30分を予定している。